

1559 回例会報告

2025-09-08 13:30 バロー文化ホール 小ホール

司会 L. 木野村匡

歓迎の挨拶 多治見ライオンズクラブ会長 岡山賢司

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、ガバナー公式訪問合同例会にご出席賜り、誠にありがとうございます。また、334-B 地区ガバナー加藤謙一ライオンをはじめ、キャビネットの役員の皆様におかれましては、ご対応のところ、遠方よりお越しいただいたこと、3Z6クラブを代表して、心より感礼申し上げます。ありがとうございます。また、多治見市長高木貴之様、本日はお忙しい中、お越しいただきまして、誠にありがとうございます。去る4月19日に、まさにこのバロー文化ホールで行われました地区年次大会において、丹羽元ガバナーからしっかりとバトンを受け継がれましたこの会場で、再び合同例会が行われることを大変嬉しく思っております。加藤ガバナーにとりまして、思い出深い場所の一つとなっているのではないのでしょうか。加藤ガバナーの掲げられたスローガン「Open a new chapter, We Serve」は、私たちが新たな一歩を踏み出し、これまでの奉仕の歩みに、さらなる一章を加えていくという、大変力強いメッセージであると感じております。私たち3Z6クラブとしても、このスローガンを胸に、地域に根差した奉仕活動をより一層邁進してまいり所存でございます。本日の公式訪問では、ガバナーより直接ご指導、ご助言をいただけることを、一同、大変光栄に思っております。今後の活動に大いに生かしてまいりたいと思っております。また、本日は、3ゾーンの複数のクラブの合同例会ということで、こうして、他のクラブのメンバーと共に語らい、学びを一つとしてできる貴重な機会でもございます。参加していただきました皆様に心より御礼申し上げます。

結びに、加藤健一ガバナーの今後の益々のご健勝とご活躍、そして、本日出席の皆様クラブ活動の発展を心より祈念いたしまして、歓迎ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



ZC 挨拶 L. 佐藤 豊

皆さん、改めましてこんにちは。本日は、この多治見の地におきまして、ガバナー公式訪問合同例会を開催するにあたり、三重県より加藤謙一ガバナー、ほか CAB 役員の皆様をお迎えできたこと、また、多治見市を代表して高木市長様に。

ご出席いただきましたこと、とても嬉しく思います。ありがとうございます。さて、本年度、加藤ガバナーのスローガン「Open a new chapter , We Serve」日本語に訳すとクラブ活動を活性化するため、新しい章を開始し社会奉仕に精進しようというふうになります。その言葉はとても力強く、また未来に向けた希望を感じる言葉だと感じております。加藤ガバナーの言葉をお借りすると、今年 **2025 年**は戦後 **80 年**、そして **21 世紀**が始まって **25 年目**、四半世紀の節目にあたるとおっしゃっております。

四半世紀。25 年後を目指してどうあるかっていうことを。加藤ガバナーはすごく訴えかけております。今まで会員増強と言いつつも、どんどんどんどん目減りしていった、このままではどうなってしまうかわからないというところを、新たに **25 年先**を見据えて、今何ができるかということをお訴えかけておられます。会員拡大、これが本当にすごく大切なことで、仲間が増えることによって、活動の力が増すだけではなく、クラブの雰囲気は豊かになります。また、新しい発見や行動につながると思います。特に若い世代、また女性会員の参加は、クラブにこれまでのない新しい視点をもたらし、未来への大きな財産になると思います。この **2R3Z** のクラブは今まで地域とともに歩んできました。これからは奉仕を広げること、それは当然なんですが、それと同時に仲間を広げることには挑戦して、より多くの人々と一緒に活躍していけたらいいなって思っております。今日のこの合同例会が、加藤ガバナーのご指導をいただきながら、新しい仲間と共に歩む第一歩になりますことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



地区ガバナー挨拶 L.加藤謙一

こんにちは。つい先日のように思い出します。丹羽前ガバナーからバトンタッチを受けまして、ここで妻と2人で親しくご挨拶させていただきました。7月1日から第72代ガバナーとして活動を開始しました。もう2ヶ月が、たちました。今日、6クラブの会長幹事会計の皆さんとお話をさせていただきました、2R3Zの皆さんが新しいスタートを切ってくださっていることを大変うれしく思います。今日はガバナー公式訪問でございますので、私の方針を再度会員の皆さんにご理解をいただくという機会でございます。今日はシンプルに一つの話をして、ガバナーとしての挨拶に入りたいと、こう思っております。今日は特別に。ガバナーレポートというものを皆さんの手元に届けました。LCIFの話を申し上げます。今年は、会員増強に関しましては、シンプルに各クラブ1名の純増をお願いします。こう言っています。各クラブ1名、去年は若干減りました。今年は6クラブありますので、6名の増員ができたという結果をもたらしていただきたいと思っておりますが、それは置いておいて、LCIFのことです。LCIFに関しまして、今年は各クラブの皆さんに100ドル献金を達成してほしい。100/100クラブをたくさん産んでほしいという訴えをしております。しかし、各クラブを回りますと、すでに1000ドル寄付にたくさんの方がやっているのに、その上にまだ100ドルかといった声や、100ドル出すのも大変だと、会費がこれまでずっと高止まりしている中で、さらに1万5000円もだすのかよというようなご批判もいただいております。各クラブ様々な事状があるなどは思っておりますが、どうかお一人一年間100ドル1万5000円ほどですが、何とかライオンズクラブメンバーとして達成していただきたい。

ただ今日はLCIF、LCIFと言って基金をたくさん出してくれと言うんだけど、何に使われているのということがちょっとわからない、ちょっと伝わってこないという話をよく聞かれました。それで今日のレポートを作りました。まず、我がライオンズ国際協会、LCIFに一年間にどの程度の基金が集まっているのかということですが、これは一昨年度の情報を整理して、そこに書きました。国際協会に集まった資金は、7,500ドルと言っていますが、細かく言うと74,764,285ドルが寄付として集まります。どこから集まったのというのを書いたのが一番のテーマで、1番、アメリカ合衆国等から1247万、カナダ153万、南アメリカ、メキシコ等172万、ヨーロッパ979万、そして我が日本国を含む東洋・東南アジアと言うんですが、3680万ドル、インドを含む東アジア、中東を含みますが801万ドル、オーストラリア104万ドル、アフリカ100万ドル、その他192万ドルとなっています。会員数でこれを割ったのを1人当たりの寄付数としてそこに書きました。我が日本、東南アジアでは1人あたり134.40ドルとなっております。見ていただくと突出しております。つまりLCIFは第5海地域、我々の地域で持っている。ということで、お一人がすでに100ドル以上の基金を出していただいているということでございます。

各地区にいくらの交付がされたのかということを整理して書きました。アメリカの**421**万ドルから始めて、我が東南アジアには**864**万ドルが還流しております。アフリカは**100**万ドルしか出しておりませんが、受け取った交付額は**569**万ドルとなっております。受益率という言葉を書きましたが、出したお金と返ってきたお钱を整理すると、出したお钱より多いのが**2**か所、南アメリカ地域とアフリカ地域です。合計して、出金されたお钱、交付されたお钱は**4, 641**万ドルでした。その後ろに書いてあるのは、残ったお钱です。**2, 835**万ドルが一昨年は残ります。これが世界の**LCIF**の状況です。我々の地域は**3680**万ドルを出して、その**20%**程度の**864**万ドルが還流されているということを示しています。

もう一つ、我々の日本はどのような状況かというのを整理しました。東京を含む**330**から九州沖縄の**337**までのうちの**1**人当たりの金額総額を出しました。**334**、我が地区は、**260**万ドルとして日本一の地域となっております。**1**人当たりの献金数が**151**ドル、すでに**100**ドル献金は達成しているという状態にあります。加えて、それを交付された。額を見ますと、東京が**14**万ドルから始まって、中部、我々の地域には**77**万ドル還流しているということになっております。ただ、**77**万ドルの中ではスペシャルオリンピックに交付された**40**万ドルが入っておりますので、それを除きますと**37**万ドルが還流したということで、受益率は**14%**平均で**14%**ですので、日本は**1180**万ドルの寄付をして、その**15%**程度が返ってきているに過ぎないという状況であります。

日本への交付金**175**万ドルの内訳はどうかということを最後に示しました。スペシャルオリンピックに**40**万ドル、能登半島大震災に**20**万ドル、**150**円かけると、約**3000**万っていうんですかね。シェアリング交付金に**87**万ドル、ライオンズクエストで**18**万ドル、その他の災害関連で**6**万ドル、人道支援で**4**万ドル等々となっております。なぜこれを指定したのか。我々は胸を張って、ライオンズクラブ国際協会を支えている地域なんだと。

複合は、そして**334B**も負けず劣らず頑張っているということを示したかったんです。**1968**年に**LCIF**国際基金が発足しました。**50**数年が経ちました。その時からライオンズクラブは地域の光となるだけではなく、世界の光になるという大きな使命を持つことになりました。どうか各クラブの皆さんは、我々は地域のために汗水流して、お钱も出して頑張っているっていう誇りを持つとともに、世界のために我々は基金を出してるんだと、それが我々の権威だと胸を張っていただきたい。会員増強する際にも、世界のことに俺たちは目を向けようじゃないか、それがライオンズマンの権威だと、こう言っていただきたい。

私が今一番気にしているのは、今朝もガザ地区の話がニュースでやっていました。とうとう**64, 800**余名の命が失われたと言われてます。あと**1**ヶ月経つとガザ侵攻が始まって**2**年というところです。ロシアとウクライナ、僕はウクライナ侵攻と呼びますが、もう**3**年半、戦争が続いています。ロシアはなかなかやめようとしません。しかし、もう間もなく終わる、終える、形は分かりませ

ん。政治がやっていることですが、終わると思いますし、終えなければなりません。その時に、我々は、その時こそライオンズクラブが復興のために大きな手を差し伸べる時だと、こう思っています。ヨーロッパに交付金が多いという傾向は、ウクライナ侵攻が大きく影響しています。ウクライナにもロシアにもライオンズクラブがあります。ガザを含むパレスチナ自治政府にもライオンズクラブがあります。もちろん、イスラエルにもライオンズクラブがあります。そのライオンズマンたちが、すべての戦いが終わった後に、今こそ復興のために手を差し伸べようと言って立ち上がる。僕はガサの空にライオンズの物資が来るようなこともあっていいじゃないか。あるいは、ライオンズのマークをつけたトラックがガサに入って、皆さんの人たちを救うよと映像が映ってほしいと、こう思っておりますが、必ず今年、そして来年の6月末までにその時期が来るだろうという確信していますし、そうしていただきたいと、こう思っておるわけでございます。

これが我々のライオンズの誇りだし、やるべきことだ、使命と、こう思っています。どうか各地区で会員増強、いろいろ大変でございますけれども、ライオンズの大きな使命を胸に頑張ってくださいと、こう思います。

LCIFの年次報告書をもとにお話しをいたしました。あまり伝わっていないことかと思っただけですので、あえて文章にして拝読させていただきました。一年間どうかよろしくお願ひ申し上げます。これで挨拶といたします。

ありがとうございました。



来賓挨拶 多治見市長 高木貴行

皆さん、こんにちは。本日は334B地区、加藤謙一ガバナー公式報告ですね、こうして多くの皆さんが多治見市に足を運んでいただきますこと、また、加藤謙

一ガバナーをはじめとする役員の皆さんも多治見市にお越しいただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。また、改めまして、今年の4月において、前丹羽ガバナーですね、多治見陶都ライオンズクラブの計らいのもと、このパロー文化ホールで、盛大に第71回地区年次大会が開催をされ、またこうして今日お越しの皆さんも、またこれについても足を運びいただいたこと私からもお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

日頃から、本当にライオンズクラブの皆様方は多治見市にとってなくてはならない存在であり、各事業においてご理解を賜っております。本日も一つの事業に対して、感謝の意を表したいと思っておりますし、本当に新たな年次においても、いろんなご相談をさせていただきながら、多治見ライオンズ、多治見陶都ライオンズの皆さんには、私どもを手伝っていただいております、心から敬意を表したいと思っております。

皆さんの思いというのは奉仕だというふうに思っています。今年の年次大会でも少しお話をさせていただきました。本当に皆様方においては、この奉仕という言葉をしっかり実践をいただいているなというふうに思っています。私も市長という立場になって、いろんな方々とお会いをさせていただきますが、口は出すが金は出さんと、そういう人が往々にして多いなというふうに感じています。しかし、ライオンズの皆さんは、口も出すし、金も出す。さらに言えば、自分たちも動かれる。私はね、本当にこれはすごいなというふうに思っています。ただ、なかなかこういう団体のこと、一市民の皆さんがご理解をされるかと言ったら、やっぱりその理解というのは深まらないというふうに思います。そういう意味では、ガバナーがおっしゃられたように、本当にああいう数字をしっかりと出して、やはり市民、日本中に、世界に、しっかりとライオンズの功績、方針を示すとともに、やはり理解を示していく、こういうことも一つの活動につながるのかなというふうに思っています。私も、今、議会をやっておりますが、妄想や空想や幻想を言われる方もいます。ただ、その方が本当に一歩を踏み出すのか、じゃあ自分は何をやるのか、何をやっていくのか、私は、そういうところが非常にもどかしく感じています。そういう意味では、何度も申し上げますが、皆様方がいろんな思いを持って、しっかりとその一歩を踏み出し、そして活動につながる。さらに言えば、その奉仕の気持ちをずっと助成されている。引き続き、私としては、皆さんと一緒に、このライオンズ活動に参加をするとともに、応援をさせていただきたいと思っております。

先ほど多治見ライオンズの時にウオーってやりたかったんですが、少しここに座っていたものですからできませんでしたが、私もですね、多治見ライオンズクラブの名誉会員という形ですね、参画もさせていただいておりますし、引き続き、この6クラブの皆様方と一緒に、この地域を盛り上げていく活動に、引き続き活動していただけることをお願い申し上げ、この開催地である多治見市長としての挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

本日は合同例会、誠にありがとうございます。ありがとうございました。



例会出席率 出席義務者数 56名 出席者数 35名 62.5%